【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成18年11月24日(2006.11.24)

【公開番号】特開2000-121699(P2000-121699A)
【公開日】平成12年4月28日(2000.4.28)
【出願番号】特願平11-290334
【国際特許分類】
　Ｇ０１Ｒ　31/28　　(2006.01)
【ＦＩ】
　Ｇ０１Ｒ　31/28　　Ｈ

【手続補正書】
【提出日】平成18年10月11日(2006.10.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　測定誤りを処理する方法であって、
　　回路の第１のノード・セットにおいて、１組の電圧測定を行い、
　　１組の最小デルタを計算し、
　　１組の最大デルタを計算し、
　　１組の最小結果デルタを計算し、
　　１組の最大結果デルタを計算し、
　　前記１組の最小結果デルタの各要素と１組の最大なものの個々の要素とを比較して、コンポーネントの第１のグループに、予め定義されたテスト限界の範囲外にあるコンポーネントが少なくとも１つ含まれているか否かを判定し、及び、
　　前記１組の最大結果デルタの各要素と１組の最小なものの個々の要素とを比較して、前記コンポーネントの第１のグループに、前記予め定義されたテスト限界の範囲外にあるコンポーネントが少なくとも１つ含まれているか否かを判定する
ことを含み、
　前記１組の電圧測定の各メンバについて第１の最小値が存在し、
　前記１組の電圧測定の各メンバについて第１の最大値が存在し、
　前記１組の最小結果デルタの各要素が、前記１組の最小デルタと前記１組の最大デルタとから得られた最小のものと最大のものとの間にあることを条件として、回転行列による前記１組の最小結果デルタの行列乗算の結果を最小化することによって、前記１組の最小結果デルタが計算され、
　前記１組の最大結果デルタの各要素が、前記１組の最小デルタと前記１組の最大デルタとから得られた最小のものと最大のものとの間にあることを条件として、回転行列による前記１組の最大結果デルタの行列乗算の結果を最大化することによって、前記１組の前記最大結果デルタが計算されることからなる、方法。
【請求項２】
　寄生効果について前記１組の電圧測定を補正することを更に含むことからなる、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
　前記１組の最小結果デルタを計算するステップは、前記１組の最小デルタと前記１組の最大デルタが制約条件として作用することにより、線形計画法を用いることによって成し

遂げられることからなる、請求項１に記載の方法。
【請求項４】
寄生効果について前記１組の電圧測定を補正することを更に含むことからなる、請求項３に記載の方法。
【請求項５】
測定誤りを処理するための方法ステップを実施するために、コンピュータによって実行可能な命令プログラムを明確に具現化した、該コンピュータによって読み出し可能なプログラム記憶媒体であって、前記方法が、
１組の最小デルタを計算し、
１組の最大デルタを計算し、
１組の最小結果デルタを計算し、
１組の最大結果デルタを計算し、
前記１組の最小結果デルタの各要素と１組の最大なものの個々の要素とを比較して、コンポーネントの第１のグループに、予め定義されたテスト限界の範囲外にあるコンポーネントが少なくとも１つ含まれているか否かを判定し、及び、
前記１組の最大結果デルタの各要素と１組の最小なものの個々の要素とを比較して、前記コンポーネントの第１のグループに、前記予め定義されたテスト限界の範囲外にあるコンポーネントが少なくとも１つ含まれているか否かを判定する
ことを含み、
１組の電圧測定の各メンバについて第１の最小値が存在し、
前記１組の電圧測定の各メンバについて第１の最大値が存在し、
前記１組の最小結果デルタの各要素が、前記１組の最小デルタと前記１組の最大デルタから得られた最小のものと最大のものとの間にあることを条件として、回転行列による前記１組の最小結果デルタの行列乗算の結果を最小化することによって、前記１組の最小結果デルタが計算され、
前記１組の最大結果デルタの各要素が、前記１組の最小デルタと前記１組の最大デルタから得られた最小のものと最大のものとの間にあることを条件として、回転行列による前記１組の最大結果デルタの行列乗算の結果を最大化することによって、前記１組の最大結果デルタが計算されることからなる、プログラム記憶媒体。
【請求項６】
寄生効果について前記１組の電圧測定を補正することを更に含むことからなる、請求項５に記載のプログラム記憶媒体。
【請求項７】
１組の最小結果デルタを計算する前記ステップは、前記１組の最小デルタと前記１組の最大デルタが制約条件として作用することにより、線形計画法を用いることによって成し遂げられることからなる、請求項５に記載のプログラム記憶媒体。
【請求項８】
寄生効果について前記１組の電圧測定を補正することを更に含むことからなる、請求項７に記載のプログラム記憶媒体。
【請求項９】
測定誤りを処理するための装置であって、
回路の第１のノード・セットにおいて、１組の電圧測定を行うための手段と、
１組の最小デルタを計算するための手段であって、前記１組の電圧測定の各メンバについて第１の最小値が存在することからなる、手段と、
１組の最大デルタを計算するための手段であって、前記１組の電圧測定の各メンバについて第１の最大値が存在することからなる、手段と、
１組の最小結果デルタを計算するための手段であって、該１組の最小結果デルタの各要素が、前記１組の最小デルタと前記１組の最大デルタから得られた最小のものと最大のものとの間にあることを条件として、回転行列による前記１組の最小結果デルタの行列乗算の結果を最小化することによって、前記１組の最小結果デルタが計算されることからな

る、手段と、
　１組の最大結果デルタを計算するための手段であって、該１組の最大結果デルタの各要素が、前記１組の最小デルタと前記１組の最大デルタから得られた最小のものと最大のものとの間にあることを条件として、回転行列による前記１組の最大結果デルタの行列乗算の結果を最大化することによって、前記１組の最大結果デルタが計算されることからなる、手段と、
　前記１組の最小結果デルタの各要素と１組の最大なものの個々の要素とを比較して、コンポーネントの第１のグループに、予め定義されたテスト限界の範囲外にあるコンポーネントが少なくとも１つ含まれているか否かを判定するための手段と、
　前記１組の最大結果デルタの各要素と１組の最小なものの個々の要素とを比較して、前記コンポーネントの第１のグループに、前記予め定義されたテスト限界の範囲外にあるコンポーネントが少なくとも１つ含まれているか否かを判定するための手段
とを備える、装置。
【請求項１０】
　寄生効果について前記１組の電圧測定を補正するための手段を更に備える、請求項９に記載の装置。